

Makita

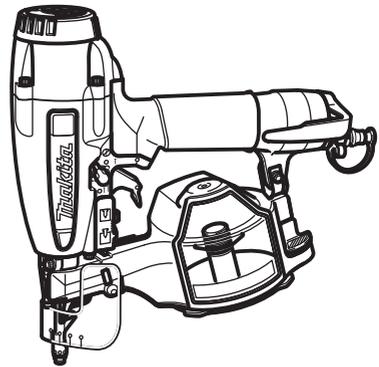
取扱説明書

エア釘打

モデル **AN514**
(万能タイプ、打込深さ調整付)

モデル **AN504**
(下地用、打込深さ調整付)

モデル **AN504A**
(下地用)



このたびはエア釘打をお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。

ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただき、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願いいたします。

なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。



主要機能

モデル	AN514		AN504	AN504A
主要機能				
使用空気圧力	0.44 ~ 0.83 MPa (4.5 ~ 8.5 kgf/cm ²)			
使用釘	ワイヤ釘：27 ~ 50 mm シート釘：25 ~ 50 mm		ワイヤ釘：27 ~ 50 mm	
釘装てん数	ワイヤ釘：200、400 本 / 巻 シート釘：200 本 / 巻		ワイヤ釘：200、400 本 / 巻	
質量	1.4 kg		1.4 kg	1.3 kg
機体寸法	長さ 287 mm × 高さ 290 mm × 幅 109 mm			
使用ホース内径	φ 6.5 mm 以上			

- ・ 改良のため、主要機能および形状などは変更する場合がありますので、ご了承ください。

注意文の 警告 ・ 注意 ・ 注 の意味について

ご使用上の注意事項は  警告 と  注意 ・  注 に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

警告

：誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

注意

：誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお  注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注

：製品および付属品の取り扱いなどに関する重要なお注意。

安全上のご注意

JPB069-9

- ・ 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ・ ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、正しく使用してください。
- ・ お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
- ・ ほかにの人に貸し出す場合は、一緒に取扱説明書もお渡ししてください。

⚠ 警告

1. ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
 - ・ 本機の取扱知識が不十分な場合、事故の原因になります。
2. 次のときは、本機を使用しないでください。
 - ・ 事故の原因になります。
 - 疲れているとき、身体が不調なとき。
 - 酒類や薬物を飲んで正常な操作ができないとき。
3. 保護メガネ、耳栓を装着し、また作業環境に応じてヘルメットなども着用して釘打ち作業をしてください。
 - ・ 装着しないと打ち損じの釘や釘の連結片で目などにけがをしたり、排気音で耳を傷める原因になります。
4. 揮発性可燃物（ガソリン・シンナーなど）の近くでは使用しないでください。
 - ・ 釘を打ち込むときの火花で火災を起こす恐れがあります。
5. 釘打ち作業以外の用途には使用しないでください。
 - ・ 事故の原因になります。
6. 本機に刻印や溶接などの改造をしないでください。
 - ・ 外枠が破損し、けがの原因になります。
7. 動力源は圧縮空気を使用してください。
 - ・ 圧縮空気以外のガス（プロパン、アセチレン、酸素など）を用いると爆発する恐れがあります。
8. 圧縮空気の圧力は 0.44 ~ 0.83 MPa (4.5 ~ 8.5 kgf/cm²) の範囲内で使用してください。
 - ・ 高すぎる圧力は、本機損傷による事故の原因になります。
9. カバーは、はずさないでください。
 - ・ はずすと釘の連結片や打ち損じの釘が飛散し、事故の原因になります。
10. 安全装置が正常に作動するか確認してからご使用ください。
 - ・ 安全装置に異常があると、事故の原因になります。
11. 足場を使って作業する場合、常に足場をしっかりさせ、バランスが保てる姿勢で作業してください。
 - ・ 足場が不安定だと事故の原因になります。
12. 屋根などで作業をするときは、前進しながら打つようにしてください。
 - ・ 後退しながら打つと足を踏みはずし、事故の原因になります。
13. 近くに人がいないことを確認してから作業を始めてください。
 - ・ 打ち損じの釘や釘の連結片などが当たり、けがをする原因となります。

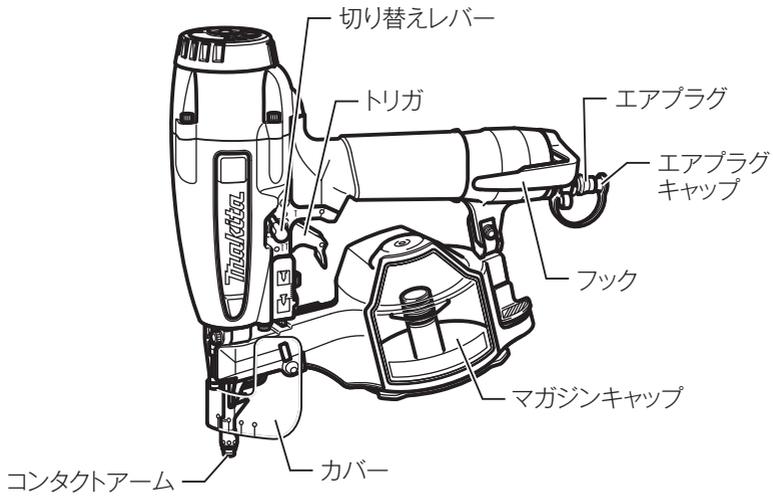
⚠ 警告

- 14.壁の内、外側からの同時作業はしないでください。
 - ・ 釘が突き抜けたり、それたりしたとき、事故の原因になります。
- 15.高所での作業のときは、ホースの固定箇所を設けてください。
 - ・ 不意に引っ張られたり、引っかかったりしたとき、事故の原因になります。
- 16.射出口やエアダスタ吹出口を人に向けてたり、手足を射出口やエアダスタ吹出口付近に近づけたりしないでください。
 - ・ 誤って発射した場合に事故の原因になります。
- 17.トリガに指をかけたまま持ち運んだり、手渡しなどをしないでください。
 - ・ 誤って発射した場合に事故の原因になります。
- 18.エアホースをつなぐときは、トリガに指をかけないでください。
 - ・ 誤って発射された場合に事故の原因になります。
- 19.エアホースを抜くときは、トリガに指をかけないでください。
 - ・ 次にエアホースをつないだとき、誤って発射された場合に事故の原因になります。
- 20.本機を落とす、ぶつける、たたくなどをしないでください。強い衝撃を与えた場合は、本機に破損や亀裂がないか、また安全装置が正常に作動するかを確認してから使用してください。
 - ・ 本機内部には圧縮空気が充てんされており、破裂や事故の原因になります。
- 21.次の場合は、トリガをロックしエアホースを本機からはずしてください。
 - ・ 誤って本機が作動すると事故の原因になります。
 - 修理する場合。
 - 釘を装てんする場合、また取り出す場合。
 - 作業中、本機を持って移動する場合。
 - 本機を使用しない場合。
 - 本機の調整または点検を行う場合。
 - 釘詰まりを直す場合。

⚠ 注意

1. 裾や袖の締まりのよい服装をしてください。
 - ・ 袖口や裾の開いた衣服などで作業しますと、事故の原因になります。
2. 作業場は、いつも明るくきれいにしてください。
 - ・ 暗かったり、ちらかった所での作業は事故の原因になります。
3. 使用前に、部品が損傷していないか、ボルトがゆるんでいないか、エア漏れがないかを点検してください。
 - ・ 不完全な本機を使用すると、事故の原因になります。
4. 作業する箇所に電線管やガス管などの埋設物がないことを確かめてください。
 - ・ 埋設物を損傷すると感電やガス漏れ事故の原因になります。
5. 射出口を確実に材料に当ててください。
 - ・ 確実に当てていないと、釘がはね返り、事故の原因になります。
6. 作業中は、本機に顔などを近づけないでください。
 - ・ 釘の上や木の節などに当たった場合、本機が大きく反動し、けがをする原因になります。
7. 作業中に本機の調子が悪くなったり、異常に気づいた場合には、ただちに使用を中止してください。
 - ・ そのまま使用していると事故の原因になります。
8. 本機およびコンプレッサは、空気充てんのまま長時間直射日光に当てて放置しないでください。
 - ・ タンク内および本機内の高圧の空気がさらに高圧になり、事故の原因になります。
9. 本機の握り部は常に乾かしてきれいな状態を保ってください。
 - ・ 握り部が滑りやすいとけがの原因になります。
10. いつも安全に能率よくご使用いただくために、定期点検をおすすめします。点検修理は、お買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所にお申し付けください。
 - ・ 修理の知識や技術のない人が修理しますと、事故の原因となります。

各部の名称および標準付属品

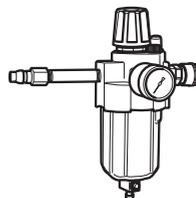
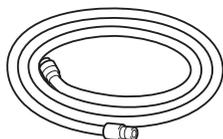


標準付属品

- ・ ボードアダプタ (AN514 のみ)
- ・ フロアアダプタ (AN514 のみ)
- ・ 油サシ (タービン油# 90、30mL 入)
- ・ プラスチックケース
- ・ セーフティゴーグル (保護メガネ)

別販売品のご紹介

- ・ 別販売品の詳細につきましてはカタログを参照していただくか、お買い上げ販売店、または当社事業所へお問い合わせください。
- ・ エアホース
10m 部品番号 A-34506
20m 部品番号 A-33205
- ・ エア3点セット
部品番号 A-13041



別販売品のご紹介

AN504、AN504A、AN514 修正版

材質	用途	種類	連結方式	長さ (mm)	胴径 (mm)	頭径 (mm)	型式	部品番号	梱包単位	適用モデル		
鉄	一般木材	無地ス ムース (山巻)	ワイヤ	32	2.1	5.0	WY2132M	F-10014	400本×10巻×4箱	AN504 AN504A		
				38	2.1	5.0	WY2138M	F-10027	400本×10巻×4箱			
				45	2.1	5.0	WY2145M	F-10030	400本×10巻×4箱			
				50	2.1	5.0	WY2150M	F-10043	400本×10巻×3箱			
		無地ス ムース (平巻)		32	2.1	5.0	WF2132	F-10490	400本×40巻			
				38	2.1	5.0	WF2138	F-10506	400本×40巻			
				45	2.1	5.0	WF2145	F-10519	400本×40巻			
				50	2.1	5.0	WF2150	F-10522	400本×30巻			
		スクリュ (山巻)		32	2.1	5.0	WYS2132M	F-11148	400本×10巻×4箱			
				38	2.1	5.0	WYS2138M	F-11151	400本×10巻×4箱			
				45	2.1	5.0	WYS2145M	F-11164	400本×10巻×4箱			
				50	2.1	5.0	WYS2150M	F-11177	400本×10巻×3箱			
		スクリュ (平巻)		38	2.1	5.0	WFS2138	F-10535	400本×40巻			
				45	2.1	5.0	WFS2145	F-10545	400本×40巻			
				50	2.1	5.0	WFS2150	F-10551	400本×30巻			
ステン レス	スクリュ (山巻)	38	2.1	5.0	WYS2138SM	F-10474	400本×10巻×2箱	AN514				
鉄		フロア	38	2.1	4.2	WYS2138FM	F-10384		400本×10巻×2箱	—		
			45	2.1	4.2	WYS2145FM	F-10397		400本×10巻×2箱	—		
	50		2.1	4.2	WYS2150FM	F-10403	400本×10巻×2箱		—			
ステン レス	外装	リング (山巻)	38	2.1	5.0	WYR2138SM	F-10326		400本×10巻×2箱	AN504 AN504A		
			45	2.1	5.0	WYR2145SM	F-10399		400本×10巻×2箱			
			50	2.1	5.0	WYR2150SM	F-10342		400本×10巻×2箱			
鉄	内装	ユニクロ スムース	シート	25	1.59	4.5	PN1625XM		F-50018	200本×20巻×2箱	—	
				32	1.83	4.8	PN1832XM		F-50021	200本×20巻×2箱	—	
		ユニクロ スクリュ		25	1.59	4.5	PNS1625XM		F-50034	200本×20巻×2箱	—	
				32	1.83	4.8	PNS1832XM		F-50047	200本×20巻×2箱	—	
				38	1.83	4.8	PNS1838XM		F-50050	200本×20巻×2箱	—	
				25	1.59	4.5	PNS1625SM		F-50063	200本×20巻×2箱	—	
		ステン レス		スクリュ	32	1.83	4.8		PNS1832SM	F-50076	200本×20巻×2箱	—
					38	1.83	4.8		PNS1838SM	F-50089	200本×20巻×2箱	—
25	1.59		4.0		PNS1625SM丸頭	F-50333	200本×20巻×2箱	—				
鉄	フロア	スクリュ	32	1.83	4.4	PNS1832SM丸頭	F-50346	200本×20巻×2箱	—			
			38	1.6	3.4	PNS1638FM	F-50092	200本×20巻×2箱	—			

AN514 : ナローシート釘の 45、50 mm は、市販品をご使用ください。

使い方

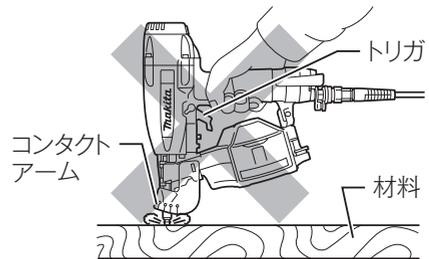
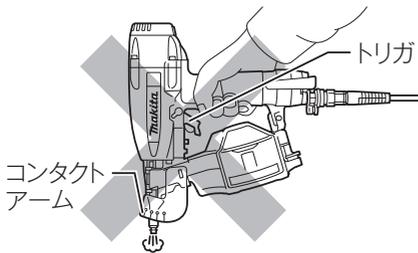
安全装置の確認

⚠ 警告

安全装置に異常がある場合は使用しないでください。

・そのまま使用すると事故の原因になります。

- ・ 釘を打つ作業に入る前に安全装置に異常がないかを下記の手順で確認してください。
1. 作業にはいる前に本機に釘が装てんされていないことを確認してください。
 2. 本機にエアホースを接続します。
 3. まずトリガだけを引いてください。次にトリガから指を離しコンタクトアームを材料に押し当ててください。
 4. 上記3の操作で本機が作動する場合は安全装置が異常です。



トリガロック装置

⚠ 警告

釘を打つ時以外は、必ずトリガロックをロック（固定）しておいてください。

・ 誤って発射された場合に事故の原因になります。

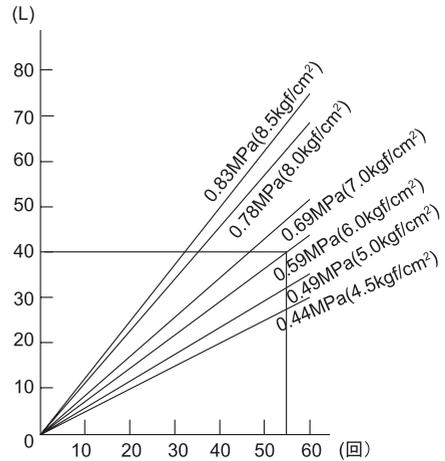
- ・ 本機はより安全に作業していただくために、トリガロック装置を装備しています。切り替えレバーを  の位置にあわせれば、トリガをロックすることができます。



使い方

コンプレッサの選定について

- ・ 本機を能率よく使用されるために、コンプレッサの最高圧力と吐出し空気量は余裕のあるものを使用してください。コンプレッサを選定される時は右図を参考にしてください。
- ・ 右図は本機での発射頻度、使用圧力とコンプレッサの吐出し量の関係を示します。たとえば、使用圧力が 0.59MPa (6.0kgf/cm^2) で発射頻度が1分間に約55回ですと、吐出し空気量 40L/min 以上のコンプレッサが必要です。



エアホースの選定について

- ・ 連続作業を効率よく行うためにエアホースは太く短い物を使用してください。
 - ※ 内径 6.5mm 以上、長さ 30m 以下のエアホースを使用する事を目安に選定してください。

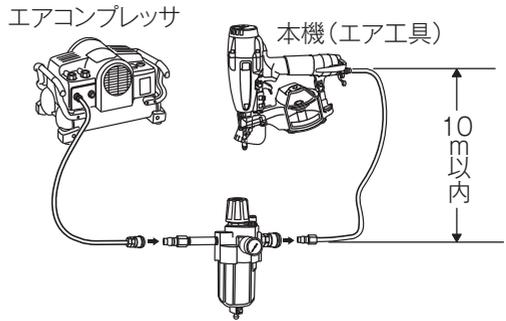
注

- ・ 釘の発射頻度にくらべコンプレッサの吐出量が少ない場合や、エアホースの内径が細いか、長さが長すぎる場合は、打ち込み力が低下します。

使い方

エアセット（別販売品）について

- ・ エアセットをご使用頂きますと、本機の作動性と防錆性を長期間最適の状態に保つことができます。
- ・ ご使用の際は、エアセットから本機までのエアホースの長さをおおよそ10m以内としてください。
- ・ オイラの油の滴下の量は50回打ち込むごとに1滴（約0.02mL）の割合で調整してください。
- ・ エアセットのオイルを使用しない場合は使用前後にエアプラグから付属のタービン油を数滴注油してください。作業前の注油は潤滑油となります。
- ・ 作業後は注油してから数回発射してください。油が本機全体に行きわたり錆止めとなります。長時間作業される場合は注油回数をふやしてください。



コンプレッサ、エアセット、エアホースの保管・点検

- ・ 作業後は必ずコンプレッサのタンクおよびエアセットのエアフィルタ内の水抜きをしてください。水がたまった状態で使用されますと、本機的能力が低下するばかりでなく、故障の原因になります。
- ・ エアセットのオイル内にタービン油が入っているか定期的に点検してください。油がない状態で使用しますと、Oリングの早期摩耗の原因となります。
- ・ エアホースは熱（60℃以上）、薬品（シンナー、強酸、強アルカリなど）および傷つけやすいものから保護するようにしてください。

使い方

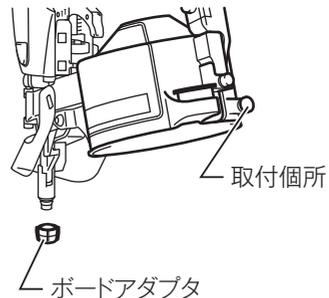
ボードアダプタ・フロアアダプタについて (AN514のみ)

⚠ 警告

ボードアダプタ・フロアアダプタ脱着の際は必ずトリガをロックし本機からエアホースをはずしてください。

- ・ 誤って本機が作動すると事故の原因になります。

- ・ 石膏ボードやサイディングなど表面を傷つけやすい材料に釘打ち作業するときはボードアダプタを、フロア材のさね打ち作業をするときはフロアアダプタを取り付けてください。出荷時ボードアダプタはマガジン部に取り付けてあります。
- ・ 取り外しが固いときは、マイナスドライバなどでこじてはずしてください。



釘の装てんについて

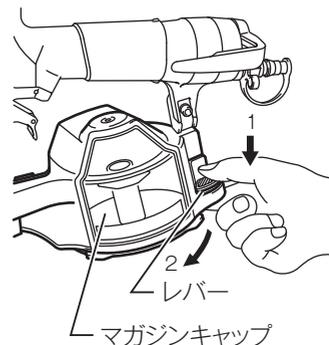
⚠ 警告

釘を装てんする場合は必ずトリガをロックし、本機からエアホースをはずしてください。

- ・ 誤って本機が作動すると事故の原因になります。

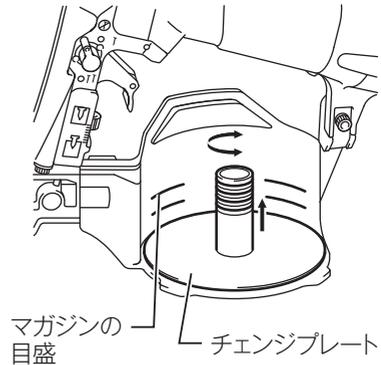
マガジンへの釘の装てん

- ・ 作業を始める前にトリガをロックし本機からエアホースをはずしてください。
- ・ 用途、作業内容により8ページの表より釘を選定します。
- ・ マガジンキャップのレバーを押して、開けます。



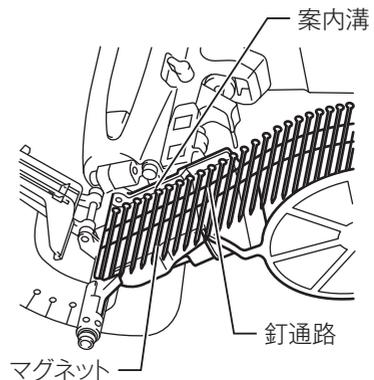
使い方

- 使用する釘の長さに合わせチェンジプレートを引きながら回転させ、チェンジプレートをマガジンの目盛に合わせてください。一致しない状態で使用されますと、釘送り不良や本機の故障の原因となります。



ドライバガイドへの釘の装てん

- マガジンより釘を引き出して、最初の釘をドライバの通路内にいれます。次に二番目の釘を釘送り爪の間にいれて釘頭が案内溝に入るようにします。
- 残りの釘を釘通路に指で押さえて合わせ、マグネットに吸着させます。この時に釘がマガジン内や釘通路から外れたり、変形していないことを確認し、マガジンキャップを閉じてください。



注

- 釘や釘の連結が変形したものは使用しないでください。
 - 指定の釘を使用してください。
- 指定以外の釘を使用しますと、釘づまり故障の原因になります。

使い方

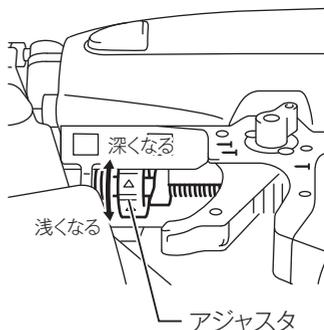
釘の打ち込み深さの調整について（AN514、AN504のみ）

⚠ 警告

打ち込み深さ調整をする場合は必ずトリガをロックし、本機からエアホースをはずしてください。

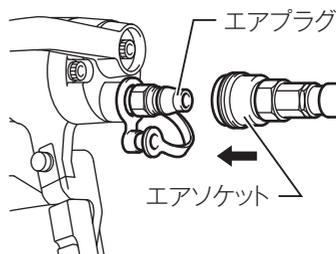
- ・ 誤って本機が作動すると事故の原因になります。

- ・ 打ち込み深さ調整はアジャスタを指で回して調整します。
- ・ 調整目盛が最も  側のとき打ち込み深さが一番深くなり、 側になるにしたがって浅くなります。
- ・ 一目盛で約 1mm の調整が行なえます。
- ・ 調整目盛が最も  側の状態でも打ち込みすぎるときは、空気圧を低い方に、また調整目盛が最も  側の状態でも打ち込み深さが不足するときは、空気圧を高い方に調整してください。
- ・ 一般に空気圧力を低くし、調整目盛を  側に近い方で使用した方が、本機は長持ちします。
- ・ フロア材のさね打ち作業でフロアアダプタを使用するときは、調整目盛を最も  側で使用してください。



エアホースの接続

- ・ トリガをロックし、本機のエアプラグにエアホースのエアソケットを差し込んでください。



使い方

打ち込み方法について

⚠ 注意

「単発打ち」で打ち込みを行う場合、トリガを最後まで完全に引いてください。

- ・ トリガを不完全に引いた状態で打ち込みを行うと、2度打ちをして、事故の原因になります。

打ち込み時、必要以上の力で本機を材料に押しつけないでください。

- ・ 2度打ちをして、事故の原因になります。

・ 打ち込み方法には次の2通りがあります。

1. コンタクトアームを材料に当ててからトリガを引き打ち込む方法（単発打ち）
2. トリガをあらかじめ引いておいて、コンタクトアームを材料に当てて打ち込む方法（連続打ち）1の方法は断続的で正確な打ち込み位置や、釘の頭と材料との面位置を合わせる必要がある時に適しています。

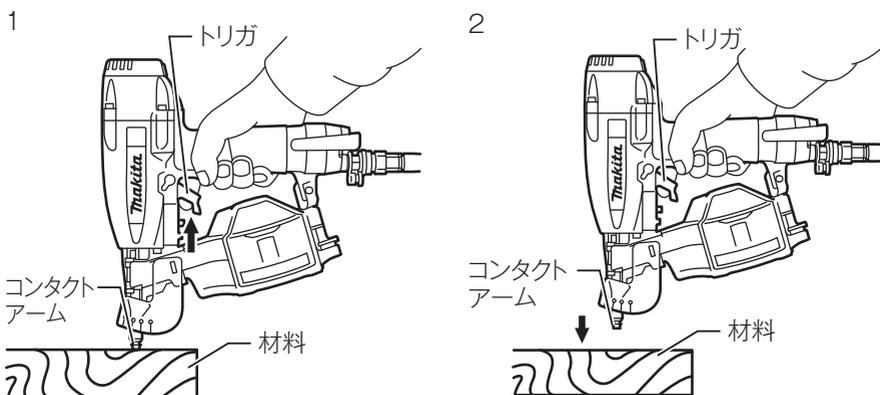
トリガを引き、次にコンタクトアームを材料に押し当てた場合は作動しません。

次の作業に入るときはトリガを一度離します。主に2度打ちを確実に防ぐ必要のあるときに使用します。

2の方法は連続作業に適しています。

トリガを引いたままの状態でもコンタクトアームを材料に押し当てることにより連続的に作業が行えます。

打ち込むときに必要以上に本機を材料に押し続けると2度打ちをすることがありますので注意してください。



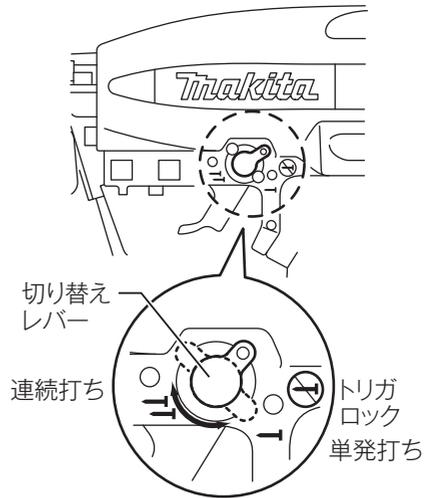
注

- ・ 釘の無くなった状態で空打ちをし続けると材料を傷めるだけでなく、本機の耐久性を損ないます。空打ちをしないでください。

使い方

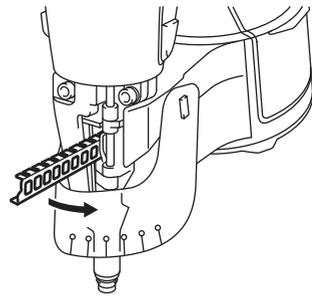
連続打ち、単発打ち、トリガロックの切り替え方法

- ・ 本機に付いている切り替えレバーを回して切り替えます。切り替えレバーがのときは連続打ち、のときは単発打ち、のときはトリガロックとなります。



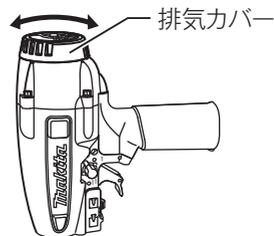
連結シートの切り方 (AN514 のみ)

- ・ シート釘をご使用の場合、釘を打ち込むにつれて釘の連結シートがカバーの間からでてきます。
- ・ じゃまになる場合は右図の方向に引きちぎってください。



排気の方角について

- ・ 排気カバーは回転しますので、好みの方向に調整してください。



使い方

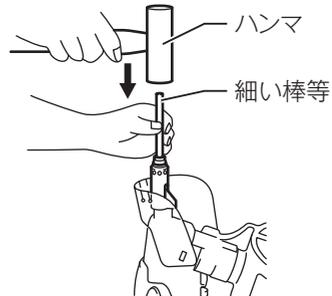
釘づまりの直し方

⚠ 警告

作業に入る前にトリガをロックし、本機からエアホースをはずしてください。

- ・ 誤って本機が作動すると事故の原因になります。

- ・ マガジンキャップを開き、釘をマガジンより抜き取ります。発射口より細い棒を入れ、詰まった釘をハンマでたたきます。ドライバ通路内に残った釘は細い棒や⊖ドライバを使用して取り除いてください。



フックについて

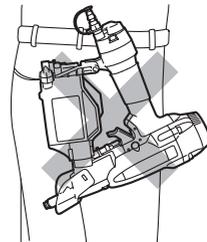
⚠ 警告

フックを使用する場合は必ずトリガをロックし、本機からエアホースをはずしてください。

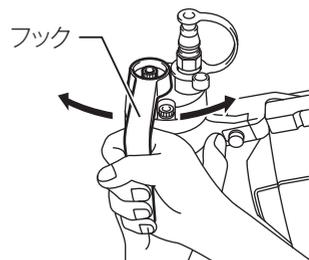
- ・ 誤って本機が作動すると事故の原因になります。

フックを腰のベルトなどにはけないでください。

- ・ フックがはずれて本機が落下した場合、誤作動する恐れがあり、事故の原因になります。



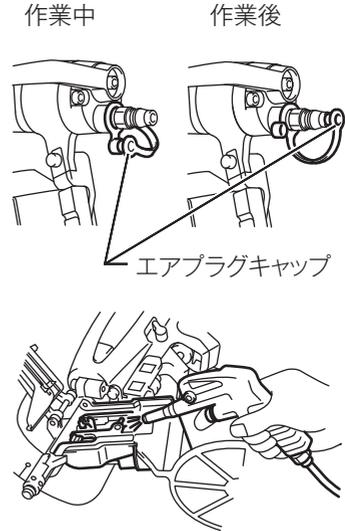
- ・ フックは本機を一時引っかけておくのに便利です。また、手で簡単に回転させることができます。



保守・点検について

作業後の保管

- ・ 本機内にゴミやほこりなどが入ると故障の原因になります。
- ・ 使用しないときにはトリガをロックし、エアホースをはずしエアプラグにエアプラグキャップをしてください。
- ・ 長時間使用しないときは防錆のためしゅう動部にマシン油などを塗布し、プラスチックケースに収納してください。
- ・ 湿気の多い所、日光の当たる所、粉塵の多い所は避けて保管してください。
- ・ マグネットに付着した鉄粉を取り除く場合は、エアダスタで吹き飛ばしてください。



純正オイルの使用

- ・ オイルは弊社純正オイルを必ず使用してください。作業終了後、空気取入れ口より付属のタービン油を数滴注油してください。これを行うことにより最良の状態を保つことができます。

ご修理の際は

- ・ 修理はご自分でなさないで、必ずお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。

882017E3
IWT

株式会社 マキタ
愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502
TEL.0566-98-1711 (代表)